

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	ふる里
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	令和 2年 8月 10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にいき親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が2週に1度回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行ききで両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは蔵王町青麻山麓に位置し、自然豊かな高台にある。敷地内には手入れの行き届いた樹木や観音様があり散歩コースになっている。機能維持のため軽体操や食事前の口腔体操を取り入れ、食事の準備や片付け等、出来る事を声掛けしながら支援している。職員は支援方法を日々話し合いながら一人ひとりに合った介助に繋げている。地域の消防協力員と夏祭りでの顔合わせや、同法人の「楽園が丘」や自立支援施設「楽園ファーム」との交流、医療機関「大泉記念病院」との協力があり安心出来る体制を築いている。誕生日には、普段使える箸や本等を贈り入居者に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふるさと)「ユニット名 ふる里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはリーダー会議やユニット会議時に職員間で話をして共有、振り返りを行っている。理念に沿って出来ている。	ホーム理念「ゆったり 一緒に 楽しく 豊かに」を職員室に貼り確認している。年度初めに職員で話し合い、ユニット毎に「一緒に」や「楽しく」をホーム理念から選んで力を入れて、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が季節の野菜等を届けてくれる。今年は出来なかったが例年、夏祭りや文化祭時に学生や婦人会のボランティアや慰問にきてくれます。	法人主催のカフェ開催案内を町の広報紙に掲載している。カフェで入居者はお茶出し、職員は講師として関わり、地域住民と一緒にゲームや体操、歌等を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが主となり行っている認知症サポーター養成講座の手伝いを行い、認知症についてやグループホームの役割について話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容、行事やその時の利用者様の状態等を説明、報告をしている。	町職員や地域の代表、家族が参加している。待機人数や空き状況、町内ニーズの情報交換をしている。行事や活動報告は文書だけでは分かりづらいとの意見を受け、プロジェクターの準備をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、社協の方が来所された時や電話にて、待機人数や空き状況、町内のニーズ等についての情報のやり取りを行い協力体制をとっている。	町役場の担当窓口にて、知的障害のある方や生活保護の方の入居の問合せや手続きの相談をし、協力を貰っている。町主催の若年性認知症や感染症対応の研修会に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の議事録を回覧し、資料を読んでもらう。又、法人全体で身体拘束についての研修会を行い知識を高めています。	3ヵ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、職員の意見を基に入居者一人ひとりの対応を検証している。サイドレールの設置箇所の変更や、おむつのあて方の見直しで不潔行為を防止し拘束のないケアに繋げている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人全体で虐待防止についての研修会を行い、職員同士で声を掛け合いケアに取り組むようにしている。何気ない介護の中でもお互いが話合える雰囲気を持っている。	法人全体会議で具体的な虐待の事例を挙げた研修会を開催している。不適切なケアや発見した時は報告義務がある事を周知し、参加出来ない職員には資料を回覧し情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は施設長が行い理解、納得をしていただき了承を得ている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には気兼ねなく意見を言える様な雰囲気作りをしている。意見や相談があった時は職員間で話合ったり、運営委員会で助言を頂くようにしている。	職員は誰もが入居者の状況を話せるようにし、その際に家族の話をしている。家族の要望で本人の好物の菓子等をあげて欲しいなど聞いて対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見や提案を出してもらい、実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。利用者様からのリクエスト食等を行っている。	ユニットリーダーが日常的に声掛けし、悩みを抱え込まない環境整備に配慮している。毎月4日の希望休がある。資格取得時の助成金があり、受講時は出張扱いになる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、各ユニットで目標を設定し、達成できるように日々取り組んでいます。又、職場の環境や人事考課、条件の整備に努めてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるよう努力しています。又、法人独自のキャリアパス制度を活用して資格修得への学習を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して、意見交換や情報の共有を図り、互いの質の向上につなげたり、ストレスの解消を行っている。	県主催の研修に参加し、ケアの振り返りに役立っている。毎月開催される法人全体研修会では、職員が講師を務める事もある。法人の職員と協力し夏祭りを開催して交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に利用される方や家族の方に不安や困っている事について聞き、できれば本人や家族に見学をしてもらい少しでも不安な事をとりのぞけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に現在の状況や要望や困っている事を聞き、GHIについての説明等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に御飯を食べ、食事の下準備、後片付け、レクゲーム、作品作り、歌や体操等を行い良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況等の近況報告を行い、状態の変化や通院があった場合には電話連絡で状況、状態の報告を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時期、自宅の近所の方や知人等が面会に来た時には自室や共有スペースでゆっくりと過ごして頂けるように努めているが、面会できない期間もある。	コロナ禍による窓越しの面会や希望時に電話で話せるようにし、家族との関係継続を支援をしている。訪問理美容を利用し新しい馴染みも出来ている。同法人「楽園ファーム」に出向き、ごみ採りを行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々がうまく関わり合えるように、定期的に食席を替えている。行事を増やし、みんなで過ごす時間を増やすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談等に努めるようにしています。又、利用されていた方が退所した後も家族の方が地域住民として運営委員として関わってくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から希望等を聞き、できる限り本人の希望にそえるような形で支援するように努めている。	入浴時や就寝前に1対1でゆっくり話を聞いている。不満や希望を把握し、入居者同士のトラブル回避に繋げている。落ち着かない時に草むしりに誘い、昔の話を聞きながら気分転換を図る事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えてもらい把握に努めている。食事の時や入浴時に話を聞く事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状況、状態により医師へ相談して指示を頂くようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見等があれば、ユニット会議で話合ったり、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。気がついた点などヒヤリハットの記入をし共有している。	日常の様子や対応方法を記入した気づきメモ、ヒヤリハット報告書を持ち寄り、カンファレンスを行い計画書に反映している。月1回モニタリングを実施し計画書を見直している。薬の調整など医師の助言を反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、職員間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせて、できる限り本人の意向に沿える対応を行っている。必要に応じて通院送迎や付き添い、買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭に作品を出品するにあたりみんな作品を考え作成したり、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれが、かかりつけの病院に受診できるように家族と連絡を取り合っている。又、法人の車両にて送迎を行う時もある。	全員が大泉記念病院病院から月2回の回診がある。夜間や緊急時も協力医と連携が取れている。協力医の意見で認知症専門医の受診に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には併設の特養の看護師に診てもらったり、適切な処置の仕方等、助言してもらっている。又、協力病院との連携がスムーズに行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の医師や相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけて方針を決め、事業所のできる事について家族に説明している。その方が重度化した場合はその都度話し合いを持つようにしている。現在のところその様な方はいない。	入居時に「重度化及び看取り介護に関する指針」で説明し、看取りの対応をしている。家族の要望で医療機関を選択するケースが多い。重度化については、医師や家族の意見を聞き介護内容を見直し、出来る支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院や救急隊に連絡をして指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。応急処置等についても法人全体での研修会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、災害時には併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が協力していただけるような体制は築けている。	入居者が参加し「楽園が丘」との合同訓練と夜間想定避難訓練を実施した。緊急連絡網で消防協力員に連絡が行く体制や、総評に、避難通路には物を置かないなどがあった。	

ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉使いや態度に気をつけて接するように努めている。その時の状況に応じた言葉の使い方をしている。ケアの面でお互いが刺激しながらユニット会議や普段の会話で意見交換し合っている。	人生の先輩として敬い、友達言葉にならないように気を付けている。排泄の失敗時は、居室に誘導し他の入居者の目につかないよう対応している。皮膚状態が悪い時は同性が確認するよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には自分の食べたい物をリクエストしてもらい提供している。自己決定の場面を増やせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の身体状況やその日の状態、希望を聞きながら出来るかぎり今までの生活の延長として暮らせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように声掛け等を行っている。理髪の際に希望があればパーマもかけてもらえるように美容室に依頼して対応してもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事の量を提供している。1人1人量りで計って提供している。又、その人に合わせて形態を変えて提供している。	敷地内で育てた野菜や差し入れを利用し季節感のある献立を法人栄養士が作成した物をアレンジしている。入居者が丼物やフライの具材を選べるようにしたり、誕生日には希望を取り入れている。みんなで作るお好み焼きも人気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事の量を提供している。又、その人に合わせて形態を変えて提供している。10時、15時には出来る限り食堂へ出てきてもらい水分を取ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きやうがい、義歯洗浄等、その人に合わせた支援や助助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方個別に合わせた排泄の排泄支援を行うように努めている。	トイレの場所が分からなくなる入居者もいるので、排泄チェック表でパターンや動作を見て誘導し失禁回数減に繋げている。夜間時は、センサー利用や、時間で声掛け誘導をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、冷水、果物を提供している。午前、午後の水分補給も行っている。医師に相談を行い薬で調整している方もいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にはハイダルチェックを行い、本人からの体調変化等について聞き入浴の可否としている。ゆっくりと入浴してもらるように、その方に合った支援が出来るように努めている。	入浴は週2～3回で、順番や同性介助等希望を考慮している。必要に応じ2人介助で安心して入浴できるよう支援している。ゆっくり話を聞いたり歌を歌ったり、ゆず湯や入浴剤を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は活動していただくように努めている。3時のおやつ後にはみんなで歌を歌い体操をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。薬の変更等があった場合は連絡ノートを使用して職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人で購入した物等水分補給時に好みの物を提供したり、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、その方が好きな事、出来る事を行ってもらい張り合い、喜びのある生活を送っていただけるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、感染症で外出支援等は行っていないが、必要時の通院外出などには支援している。一時期、家族と好きな時に外出が出来るように支援している。	テラスでお茶会や、広い敷地内で散歩をしたり、花見、花火大会を実施している。洗濯物干しやゴミ捨て、畑の水やりで日常的に外に出る機会を支援している。盆や年末年始は自宅に外出する入居者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング等の支援が出来ていない為にお金のやり取りが出来ていない。欲しい物をスタッフや家族が代行して行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時に電話を掛けられる環境を整えている。又、ホームの電話を使用して家族と話してもらおう事もある。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはテーブル、ソファ、イスを設置してあり、誰でもくつろげるようにしている。季節を感じてもらえるようにみんなで作成した壁画や行事の写真を飾っている。自然に皆さんが集まっている。	リビングに敷地内の花や「ウサギと月」等季節毎に作成した貼り絵を飾っている。談話コーナーのソファで寛いだり、お笑いのDVDや新聞を見て過ごしている。時間を決め窓を開け空気の入換えを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファ、テーブル、イスを設置しています。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、水分補給や外気浴を行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が必要な物や使い慣れた物、テレビ、タンス、位牌等を持参している。写真や小物を飾り、その方にあった部屋になっている。	洗面台、トイレ、ベッド、テーブル、チェスト、寝具一式が備え付けである。家族写真や好みのカレンダーを飾って、自分らしさを出している。遺影を置く方や読書をして過ごす入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で出来る事は、本人から依頼等があるまで見守り、なるべく自力で行ってもらうように声掛けを行っている。又、一緒に行う事で安心、安全に生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	わが家
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	令和 2年 8月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 9月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にいき親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が2週に1度回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行ききで両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは蔵王町青麻山麓に位置し、自然豊かな高台にある。敷地内には手入れの行き届いた樹木や観音様があり散歩コースになっている。機能維持のため軽体操や食事前の口腔体操を取り入れ、食事の準備や片付け等、出来る事を声掛けしながら支援している。職員は支援方法を日々話し合いながら一人ひとりに合った介助に繋げている。地域の消防協力員と夏祭りでの顔合わせや、同法人の「楽園が丘」や自立支援施設「楽園ファーム」との交流、医療機関「大泉記念病院」との協力があり安心出来る体制を築いている。誕生日には、普段使える箸や本等を贈り入居者に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふるさと )「ユニット名 わが家 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはリーダー会議やユニット会議時に職員間で話をして共有、振り返りを行っている。目につく所に貼ってあるので振り返る事ができる。ほぼ出来ている。	ホーム理念「ゆったり 一緒に 楽しく 豊かに」を職員室に貼り確認している。年度初めに職員で話し合い、ユニット毎に「一緒に」や「楽しく」をホーム理念から選んで力を入れて、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が季節の野菜等を届けてくれる。今年が出来なかったが夏祭りや文化祭時に学生や婦人会のボランティアや慰問にきてくれる。	法人主催のカフェ開催案内を町の広報紙に掲載している。カフェで入居者はお茶出し、職員は講師として関わり、地域住民と一緒にゲームや体操、歌等を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが主となり行っている認知症サポーター養成講座の手伝いを行い、認知症についてやグループホームの役割について話をさせてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容、行事やその時の利用者様の状態等を説明、報告をしている。	町職員や地域の代表、家族が参加している。待機人数や空き状況、町内ニーズの情報交換をしている。行事や活動報告は文書だけでは分かりづらいとの意見を受け、プロジェクトの準備をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、他事業所や社協の方が来所された時や電話にて、待機人数や空き状況、町内のニーズ等についての情報のやり取りを行い協力体制をとっている。	町役場の担当窓口にて、知的障害のある方や生活保護の方の入居の問合せや手続きの相談をし、協力を貰っている。町主催の若年性認知症や感染症対応の研修会に職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の議事録の回覧、資料を読んでもらう。又、法人全体で身体拘束についての研修会を行い知識を高めている。	3ヵ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、職員の意見を基に入居者一人ひとりの対応を検証している。サイドレールの設置箇所の変更や、おむつのあて方の見直しで不潔行為を防止し拘束のないケアに繋げている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人全体で虐待防止についての研修会を行い、職員同士で声を掛け合いケアに取り組むようにしている。不適切ケア等を話し合い、職員同士の質を高めている。	法人全体会議で具体的な虐待の事例を挙げた研修会を開催している。不適切なケアや発見した時は報告義務がある事を周知し、参加出来ない職員には資料を回覧し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえるように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は施設長が行い理解、納得をしていただき了承を得ている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には気兼ねなく意見を言える様な雰囲気作りをしている。意見や相談があった時は職員間で話合ったり、運営委員会で助言を頂くようにしている。	職員は誰もが入居者の状況を話せるようにし、その際に家族の話をしている。家族の要望で本人の好物の菓子等をあげて欲しいなど聞いて対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見や提案を出してもらい、実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。利用者様からのリクエスト食等を行っている。	ユニットリーダーが日常的に声掛けし、悩みを抱え込まない環境整備に配慮している。毎月4日の希望休がある。資格取得時の助成金があり、受講時は出張扱いになる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、各ユニットで目標を設定し、達成できるように日々取り組んでいる。又、職場の環境や人事考課、条件の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるように努力しています。又、法人独自のキャリアパス制度を活用して、各自資格修得への学習を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して、意見交換や情報の共有を図り、互いの質の向上につなげたり、ストレスの解消を行っている。	県主催の研修に参加し、ケアの振り返りに役立っている。毎月開催される法人全体研修会では、職員が講師を務める事もある。法人の職員と協力し夏祭りを開催して交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に利用される方や家族の方に不安や困っている事について聞き、本人や家族に見学をしてもらい少しでも不安な事をとりのぞけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に現在の状況や要望や困っている事を聞き、GHIについての説明等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る所を見出し、一緒に御飯を食べ、食事の下準備、後片付け、レクゲーム、作品作り、歌や体操等を行い良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況等の近況報告を行うようにしている。状態の変化や通院があった場合には電話連絡で状況、状態の報告を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が面会に来た時には自室や共有スペースでゆっくりと過ごして頂けるように努めていたが、面会の制限などがあり出来ない部分もあった。	コロナ禍による窓越しの面会や希望時に電話で話せるようにし、家族との関係継続を支援をしている。訪問理美容を利用し新しい馴染みも出来ている。同法人「楽園ファーム」に出向き、ごみ採りを行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々がうまく関わり合えるように、定期的に食席を替えている。行事を増やし、みんなで過ごす時間を増やすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談等に努めるようにしている。又、利用されていた方が退所した後も家族の方が地域住民として運営委員として関わってくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から希望等を聞き、できる限り本人の希望にそえるような形で支援するように努めている。	入浴時や就寝前に1対1でゆっくり話を聞いている。不満や希望を把握し、入居者同士のトラブル回避に繋げている。落ち着かない時に草むしりに誘い、昔の話を聞きながら気分転換を図る事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状況、状態により医師へ相談して指示を頂くようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見等があれば、ユニット会議で話合ったり、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。小まめにヒヤリハットも共有し合っている。	日常の様子や対応方法を記入した気づきメモ、ヒヤリハット報告書を持ち寄り、カンファレンスを行い計画書に反映している。月1回モニタリングを実施し計画書を見直している。薬の調整など医師の助言を反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、職員間で情報共有に努めている。キッチンに気づきメモ用紙を置きすぐに記入出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせ、できる限り本人の意向に沿える対応を行っている。必要に応じて通院送迎や付き添い、買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭に作品を出品するにあたりみんな作品を考え作成したり、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれが、かかりつけの病院に受診できるように家族と連絡を取り合っている。又、法人の車両にて送迎を行う時もある。蔵王病院のドクターが月に1回往診してくれている方もいる。	全員が大泉記念病院病院から月2回の回診がある。夜間や緊急時も協力医と連携が取れている。協力医の意見で認知症専門医の受診に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば併設の特養の看護師に診てもらったり、適切な処置の仕方等、助言してもらっている。又、協力病院との連携がスムーズに行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の先生方をはじめ相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけて方針を決め、事業所のできる事について家族に説明している。その方が重度化した場合はその都度話し合いを持つようにしている。	入居時に「重度化及び看取り介護に関する指針」で説明し、看取りの対応をしている。家族の要望で医療機関を選択するが多い。重度化については、医師や家族の意見を聞き介護内容を見直し、出来る支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院や救急隊に連絡をして指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。応急処置等についても法人全体での研修会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、災害時には併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が協力していただけるような体制は築けている。	入居者が参加し「楽園が丘」との合同訓練と夜間想定避難訓練を実施した。緊急連絡網で消防協力員に連絡が行く体制や、総評に、避難通路には物を置かないなどがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対しての言葉使いや態度に気をつけて接するように努めている。その時の状況に応じた言葉の使い方をしている。	人生の先輩として敬い、友達言葉にならないように気を付けている。排泄の失敗時は、居室に誘導し他の入居者の目につかないよう対応している。皮膚状態が悪い時は同性が確認するよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には自分の食べたい物をリクエストしてもらい提供している。自己決定の場面を増やせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の身体状況やその日の状態、希望を聞きながら生活してもらえるように努めている。お風呂に入りたくないとの事であれば次の日に、寝ている状態であれば食事の時間を遅らせたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように声掛け等を行っている。離床時に髪の毛を整えてもらう様にクシを渡したり、男性の方には髭剃りの声掛け、介助を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼やくや嚥下力に合わせてお粥やミキサー、刻み食等に食事形態を変えて提供している。食事の下準備や毎食後のお盆拭きを行ってもらっている。	敷地内で育てた野菜や差し入れを利用し季節感のある献立を法人栄養士が作成した物をアレンジしている。入居者が丼物やフライの具材を選べるようにしたり、誕生日には希望を取り入れている。みんなで作るお好み焼きも人気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御飯を食べてもらえるように形態や量を変えて提供している。箸が止まってしまう方には、その都度何度も声掛けを行う様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きやうがい、義歯洗浄等、その人に合わせた声掛け、支援や介助を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	交換回数や時間帯を変えたり、その方に合わせた排泄ケアに努めている。チャイムでトイレに行った事が分かるようにして排泄確認を行っている方もいる。	トイレの場所が分からなくなる入居者もいるので、排泄チェック表でパターンや動作を見て誘導し失禁回数減に繋げている。夜間時は、センサー利用や、時間で声掛け誘導をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、冷水、果物を提供している。午前、午後の水分補給も行っている。ドクターに相談を行い薬で調整している方もいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入る順番を変えたり、職員2名で介助を行い入る方、入浴を断る方には時間をあけて何度か声掛けしたり、声掛けを行う職員を変えたりして対応している。	入浴は週2～3回で、順番や同性介助等希望を考慮している。必要に応じ2人介助で安心して入浴できるよう支援している。ゆっくり話を聞いたり歌を歌ったり、ゆず湯や入浴剤を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は活動していただくように努めている。3時のおやつ後にはみんなで歌を歌ったり、体操をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。薬の変更等があった場合は連絡ノートを使用して職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、その方が出来る事を行ってもらっている。家族の方が持って来てくれたコーヒーやフルーツジュースを毎日飲んでいる方もいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等を数回に分けて全利用者様が出掛けられるように取り組んでいる。天気の良い日にはなるべく戸外に出れるように支援している。又、家族と好きな時に外出が出来るように支援している。	テラスでお茶会や、広い敷地内で散歩をしたり、花見、花火大会を実施している。洗濯物干しやゴミ捨て、畑の水やりで日常的に外に出る機会を支援している。盆や年末年始は自宅に外出する入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は利用者様、家族の要請を受け行うようにしています。買い物等を使う際には出金して、台帳に記入を行っています。買い物に行った時には自分で支払いができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時に電話を掛けられる環境を整えている。又、家族から電話があった時には本人と話をしてもらうようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはテーブル、ソファ、イスを設置してあり、誰でもくつろげるようになっています。季節を感じてもらえるようにみんなで作成した壁画や行事の写真を飾っています。	リビングに敷地内の花や「ウサギと月」等季節毎に作成した貼り絵を飾っている。談話コーナーのソファで寛いだり、お笑いのDVDや新聞を見て過ごしている。時間を決め窓を開け空気の入換えを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファ、テーブル、イスを設置しています。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、水分補給や外気浴を行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が必要な物や使い慣れた物、テレビ、タンス、位牌等を持参している。写真や小物を飾り、その方にあった部屋になっている。	洗面台、トイレ、ベッド、テーブル、チェスト、寝具一式が備え付けである。家族写真や好みのカレンダーを飾って、自分らしさを出している。遺影を置く方や読書をして過ごす入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアにチャイムを使用してトイレに入った事が分かるようにしている。排便確認やパットの交換、パット等をトイレに流していないかの確認を行うため。		